

平成23年度現場研修会開催のお知らせ

「霞ヶ浦のあゆみ ー環境変遷、過去から未来へー」

事業企画委員会

一般社団法人日本地質学会関東支部共催

平成23年度現場研修会は、日本地質学会関東支部の共催を得て、「霞ヶ浦のあゆみ」の開催を予定しています。霞ヶ浦は、茨城県南東部から千葉県北東部に広がる湖沼水質保全特別措置法指定湖沼です。湖面積は220km²（日本第2位）、平均水深は4m、最大水深は7m、貯留量は約8.5億m³、流域面積は約2,160km²と広く、茨城県の面積の約35%を占めています。

霞ヶ浦の周辺は、約12万年前の下末吉海進時には古東京湾の海底に位置し、7万2千年前頃に始まった最終氷期とともに一旦陸地化します。その後、1万数千年前頃から始まった縄文海進により低地は海の入り江となったと考えられています。

霞ヶ浦の治水対策の歴史は、約400年前の江戸時代の利根川東遷事業にはじまり、1783年の浅間山大噴火の影響による利根川下流域の洪水被害の深刻化、明治時代の利根川水系の大規模河川改修など、長年にわたる洪水被害との戦いでした。これらの治水対策を進める一方で霞ヶ浦の周辺では塩害も発生し、その対策により霞ヶ浦は淡水化が決定的なものとなりました。

1960年代には、広域地域開発と首都圏の長期的な水需要に対する利水目的も含めた霞ヶ浦開発事業が実施されました。現在は霞ヶ浦の水質浄化、周辺河川の流況改善、利水を目的として、那珂川・霞ヶ浦・利根川を巨大な地下水路で結ぶ霞ヶ浦導水事業が行われています。

研修会では、霞ヶ浦周辺の地質、霞ヶ浦治水対策の歴史、霞ヶ浦導水事業により地下50mに建設された巨大な地下水路に関して、講師の説明を聞きながら見学することを予定しています。

皆様、ふるってご参加下さい。

記

テーマ 平成23年度現場研修会「霞ヶ浦のあゆみ ー環境変遷、過去から未来へー」

主催 一般社団法人 日本応用地質学会

共催 一般社団法人 日本地質学会 関東支部

開催日時：平成23年11月26日(土) 土浦駅東口バス乗り場付近 10:00 出発 (9:50 集合)

土浦駅東口バス乗り場付近 <http://www.jreast.co.jp/estation/stations/1011.html>

場所：霞ヶ浦周辺および霞ヶ浦導水路内

募集人数：35名程度

予定ルート：土浦駅(東口) → 霞ヶ浦周辺の地質観察 → 霞ヶ浦環境科学センター見学(昼食)

→ 霞ヶ浦導水路施設見学(高浜機場) → 土浦駅(東口)

参加費：3,000円(昼食は各自でご準備をお願いします)

C P D H：6時間

その他：当日は導水路トンネル内を見学するため、ヘルメットはできる限り各自でご準備をお願いします。ヘルメットを持っていない方は、申し込みの際にその旨をお知らせください。また、長靴の準備は不要ですが、念のため濡れても汚れても良い服装でご参加ください。

申し込み：ジオ・スクーリングネット (<https://www.geo-schooling.jp/>) または下記事務局へお願いします。

日本応用地質学会事務局 TEL：03-3259-8232, FAX：03-3259-8233

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-14 お茶の水桜井ビル7F

E-mail：office@jseg.or.jp

以上